



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

資料 4

ITパスポート試験について

平成20年10月24日

独立行政法人 情報処理推進機構

情報処理技術者試験センター

新試験制度の特色

1. 共通キャリア・スキルフレームワークのレベル判定ツール化
試験の可否をレベル判定の尺度として利用
2. 社会のITリテラシー向上のため、ITパスポート試験を創設
広く職業人一般に求められる情報技術に関する基礎的な知識を問う
3. 「情報システム」のベンダ側人材とユーザ側人材の一体化
4. 「組み込みシステム」の重要性の高まりに対応 等

新試験	共通キャリア・スキル フレームワーク		情報システム／組み込みシステム								
			ベンダ側／ユーザ側							独立	
レベル4	高度な 知識・技能	高度(プロフェッショナル)試験	ITストラテジスト試験 (ST)	システムアーキテクト試験 (SA)	プロジェクトマネージャ試験 (PM)	ネットワーク スペシャリスト試験 (NW)	データベース スペシャリスト試験 (DB)	エンベデッドシステム スペシャリスト試験 (ES)	情報セキュリティ スペシャリスト試験 (SC)	ITサービスマネージャ試験 (SM)	システム監査技術者試験 (AU)
レベル3	応用的 知識・技能		応用情報技術者試験 (AP)								
レベル2	基本的 知識・技能		基本情報技術者試験 (FE)								
レベル1	職業人に 共通に 求められる 基礎知識		ITパスポート試験 (IP)								

ITパスポート試験の活用事例

今やIT（情報技術）は我が国の社会基盤となっており、すべての職業人にITを活用する能力が求められている。

広く企業の初期教育や大学・高校等の教育課程で活用されることにより、「社会のIT力」が向上する。

【取り組み事例】

- A企業グループ：グループ役職員のITリテラシー向上を目的に、ITパスポート試験の受験を推奨。試験合格者に対し、昇級・昇格への資格要件となるポイントを付与するとともに、受験料及び講習受講料を会社で負担。
- B企業：全社員対象のスキルアッププログラムのひとつとして、ITパスポート試験を採用。また、平成21年度採用予定者に対しては、ITパスポート試験に向けた通信教育講座を推奨。
- C企業：平成21年度新社員に、入社後ITパスポート試験を受験させる準備に着手。
- D大学：ITパスポート試験レベルの知識習得を目的としたEラーニングシステムの講座を創設し単位を付与するとともに、1年生全員にITパスポート試験の受験を推奨。受験料は大学で負担する予定。
- E大学：ITパスポート試験対策用の授業を開講し単位を付与するとともに、単位取得者がITパスポート試験を受験する場合は、受験料を大学で負担。

ITパスポート試験の内容

①試験時間	165分
②出題形式	多肢選択式（四肢択一） (1) 小問形式（1問の中に1つの設問がある試験問題） (2) 中間形式（1問の中に4つの設問がある試験問題） 1つの状況設定に対し，複数の視点から知識・理解を問う）
③出題数	100問 (1) 小問形式：88問 (2) 中間形式：12問（4設問／問を3問出題）
分野別出題数の内訳	3つの分野から幅広く出題（※） (1) ストラテジ系（経営一般）：35問 (2) マネジメント系（ITマネジメント）：25問 (3) テクノロジ系（ITテクノロジー）：40問
④合格基準	(1) 総合得点の60%以上 (2) 分野別得点の30%以上 なお，合格証書には総得点及び分野別得点を記載する

※ 具体的出題内容は、ITパスポート試験シラバス(情報処理技術者試験における知識の細目)を参照

<URL> http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00topic/topic_20080626_syllabus_ip.html